

社会連携センター
Center for Community Relations

Annual Report 2012



平成25年3月

国立大学法人 電気通信大学

目次

挨拶	2
社会連携関連カレンダー	3
青少年の育成	
○ 調布少年少女発明クラブ／電通大子ども工作教室	7
○ ながれと遊ぼうコンテスト	13
○ 中学生職場体験受け入れ事業	15
○ おもちゃの病院	16
○ 電通大のお兄さんお姉さんと楽しむ工作教室	17
習得・知得	
○ 公開講座	20
○ 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座	23
○ いなぎ IC カレッジ・プロフェッサー講座	24
協働活動	
○ キャンパス美化活動	26
○ 花植え活動	27
ボランティア活動支援	
○ 活動支援事業	29
トピックス	
○ 調布特別支援学校との連携	38
○ 渋谷区教育委員会との連携	45
○ 調布市多方面セクターとの連携	48

ご挨拶

本冊子では、電気通信大学社会連携センターがこの一年間、主になって推進あるいは支援してきた事業をとりまとめました。中をご覧になれば、おしなべて初等中等教育関連の活動割合が高いこと、そしてシニア世代の卒業生、研究室、教員、学生ボランティアなどさまざまな形態で活動が実施されていることにお気づきになると思います。また、相手方として地元調布市と渋谷区教育委員会との連携が大きな位置を占めています。

今年度の特徴としては、学生の公認サークルによる社会貢献活動に対して目黒会（同窓会）から支援がなされ、模型研究会と工学研究部が工作教室を開催したことが挙げられます。この背後にあるのは、発明クラブの応募倍率が8倍を超えていかにも社会的ニーズが高いという現実です。

また、今後進展があるかもしれない事項として、教職課程向けボランティア活動への協力と「公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩」関連のボランティア活動への支援があります。このように学生が主役となる活動への支援の比重が今後増してきそうです。

一般に大学と社会との間の連携活動は、大学がどのような地域に設置されているか、大学のめざすところが何かによって大きく異なります。統計的に見ると地域の産業振興への協力と学生ボランティア活動への支援が多いようです。本学について申し上げますと、前者は産学官連携センターが主として担当することになっておりますので、後者が本センターで推進すべき活動です。これについては従来から、理系の大学は時間にゆとりがないために不利であるといわれてきました。しかし、ボランティア精神は教育の場の内外で重要な要素であります。学生たちもそれをしっかり認識していることでしょう。

さて、地域の産業振興にせよ学生ボランティアにせよ、地域はそれらを大学に期待しているわけです。東京の多摩地区という比較的静かな住宅地域にあり、かつまわりに国公立多数の大学がある中で、地域が本学に何を期待しているかを汲み取ることは容易ではありません。それでもなお、さまざまな方々とお会いすると本学への熱い期待を耳にします。本学に何ができるか？これはわれわれに課せられた課題であり、皆様とともに解答をみつけていきたいと存じます。

平成 25 年 3 月

社会連携センター長

情報理工学研究科教授 林 茂雄

社会連携関連カレンダー

※カラー箇所は、本文にて取り上げている項目です。

月日	社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項
4月			
14	調布少年少女発明クラブ 開講式		
21			おもちゃの病院
28	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室		
5月			
12	調布少年少女発明クラブ		
19	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室		おもちゃの病院
23		地域産業振興講座	
6月			
6		地域産業振興講座	
9	調布少年少女発明クラブ		
16			おもちゃの病院
23	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室		
7月			
3	出前授業 桐朋小学校 「発電の仕組みを知ろう」		
5		日本語ボランティア入門講座 公開講座 第4回 身の丈起業塾(全2回) 公開講座 第5回 ボランティア養成講座 「震災時に障害のある子ども達を守るには (2)～学校と地域が連携した訓練にむけて 地域産業振興講座	
6			
11			第8回 キャンパス美化活
12		日本語ボランティア入門講座	
14	調布少年少女発明クラブ	公開講座 第4回 身の丈起業塾(全2回)	
19		日本語ボランティア入門講座	
21			おもちゃの病院
25		地域産業振興講座	
26		日本語ボランティア入門講座	
28	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室		
8月			
1	子どもと学ぶ科学実験講座 ～最先端は身近にあった～①		
2		日本語ボランティア入門講座	
4	調布少年少女発明クラブ		
7	子どもと学ぶ科学実験講座 ～最先端は身近にあった～②		
9		日本語ボランティア入門講座	
16		日本語ボランティア入門講座	
17	出前授業 調布市富士見児童館 「ストローヘリを飛ばそう」		
18			おもちゃの病院
23		日本語ボランティア入門講座	
29		地域産業振興講座	
30		日本語ボランティア入門講座	
9月			
1		公開講座 女性のための起業講座	
6		日本語ボランティア入門講座	
8	調布少年少女発明クラブ		
13		日本語ボランティア入門講座	
15			おもちゃの病院
20		日本語ボランティア入門講座	
22	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室		
24	出前授業 調布市立第一小学校科学部 「音とはどんなもの」		
26		地域産業振興講座	
30	出前授業 調布市立富士見台小学校 「ヘリコプターを作って飛ばそう」 電通大のお兄さんお姉さんと楽しむ工作教室 「模型製作教室」		

月日	社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項
10月			
6	渋谷ハチラボ 「電気のエネルギー 作る・使う」	公開講座 第5回 調布身の丈起業塾	
7	渋谷ハチラボ 「電気のエネルギー 作る・使う」		
13	調布少年少女発明クラブ	公開講座 第5回 調布身の丈起業塾	
15	出前授業 調布市立第一小学校科学部 「空気の組成を調べる」		
20			おもちゃの病院
22	出前授業 調布市立第一小学校科学部 「ヘロンの噴水を作る」		おもちゃの病院
27	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室	UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「江戸時代の科学と技術」 第1回 江戸時代の数学(1)	
28	電通大のお兄さんお姉さんと楽しむ工作教室 「電子ピアノを作ろう」		
29	出前授業 調布市立第一小学校科学部 「ブーメランを作る」		
11月			
6		公開講座 健康合気道講座①	
10	調布少年少女発明クラブ		
13		公開講座 健康合気道講座②	
17			おもちゃの病院
20		公開講座 健康合気道講座③	
24	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室 流れと遊ぼうコンテスト2012	UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「江戸時代の科学と技術」 第2回 江戸時代の天文学 公開講座 数学を試してみよう(全2回)	
25		公開講座 数学を試してみよう(全2回)	
27		公開講座 健康合気道講座④	
12月			
1	調布少年少女発明クラブ		
4		公開講座 健康合気道講座⑤	
8	調布少年少女発明クラブ	公開講座 囲碁将棋から学ぶゲーム情報学(全2回)	
9		公開講座 囲碁将棋から学ぶゲーム情報学(全2回)	
10	出前授業 調布市立調和小学校 「音ってなんだろう」		
11		公開講座 健康合気道講座⑥	
15	調布少年少女発明クラブ		おもちゃの病院
18		公開講座 健康合気道講座⑦	
22		UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「江戸時代の科学と技術」 第3回 江戸時代の測量術	

月日	社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項
1月			
8		公開講座 健康合気道講座⑧	
12	調布少年少女発明クラブ	日本語ボランティア入門講座	
15		公開講座 健康合気道講座⑨	
16			第9回 キャンパス美化活動 →降雪のため中止
22	H25年度調布少年少女発明クラブ 募集開始	公開講座 健康合気道講座⑩	
26	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室	UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「江戸時代の科学と技術」 第4回 江戸時代の数学(2)	おもちゃの病院
2月			
2		公開講座 第6回ボランティア養成講座「特別支援学校の子供たちとのふれあい ～共生社会の実現を目指して～」	
		公開講座 第6回 調布身の丈起業塾(全2回)	
9		公開講座 第6回 調布身の丈起業塾(全2回)	
16		UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「江戸時代の科学と技術」 第5回 蘭学と洋学	おもちゃの病院
20	H25年度調布少年少女発明クラブ 募集締切		
3月			
3	H25年度調布少年少女発明クラブ抽選会		
9	調布少年少女発明クラブ/子ども工作教室		
16			おもちゃの病院
23	調布少年少女発明クラブ 修了式		

● 青少年の育成

1. 調布市少年少女発明クラブ

/電通大子ども工作教室

2. ながれと遊ぼうコンテスト

3. 中学生職場体験受け入れ事業

4. おもちゃの病院

5. 電通大のお兄さんお姉さんと楽しむ工作教室

調布少年少女発明クラブ（電通大こども発明クラブ）

および

電通大子ども工作教室

「調布少年少女発明クラブ」は、社団法人発明協会東京支部（現 公益社団法人発明協会）のご支援のもと、調布市、調布市教育委員会、調布商工会のご協力を得て、平成 16 年 10 月に発足しました。当クラブでは、創作・工作活動を通じて、少年少女の皆さんが本来持っている創造性ができるだけ発揮できるよう心がけ、楽しみながら活動に取り組み、作品を完成する喜びを体得できるよう、活動を行っています。

一方、「子ども工作教室」は、「子供のうちに理科に興味を持たせるため、動いたり、音が出たり、光ったりするものを作る」をモットーに、少年少女の皆さんが楽しみながら作品を完成させる喜びを体験できる工作活動を行っています。

どちらも同じスタッフメンバー（大多数は電通大卒業生、その他に現職教員、地域のボランティアのみなさん）が実施しています。発明クラブ（定員 40 名、小学校 4～6 年生）は会員制となっているのに対し、工作教室は自由参加です。実際には工作教室参加者の過半数は発明クラブ員です。各回の活動の様子はホームページをご覧ください。

URL : <http://www.ccr.uec.ac.jp/activity/club/index.html>

発明クラブ修了者は、希望すれば特別研究生クラスに入れます。自由に活動することになっています。前年度に引き続いて、ワンチップマイコン PIC を活用する少人数プロジェクトが進んでいます。ライントレーシング車（LTV）の製作、電磁砲の開発・・・と興味はどんどん広がっています。女子向けのテクノ手芸も取り入れています。

最後に発明クラブ放送局 C.I.C.B.S. について一言します。高校生が中心になって調布 FM 放送局から 39 回放送したのですが、残念ながらこの 3 月でもって終了することになりました。しかしながら、初期のメンバーがウェブラジオの自主制作をしておりますので、いつかまた復活することと思います。

2012年度 発明クラブ/工作教室 活動報告

7期回数	通算回数	日付	形態	内容
1	167	2012/4/14	発明クラブ	発明クラブ開講式 「マンガン乾電池を分解してみよう」(林会長)
2	168	2012/4/28	工作教室/発明クラブ合同	プロペラ飛行機を作ろう
3	169	2012/5/12	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう (1)
4	170	2012/5/19	工作教室/発明クラブ合同	ピンホールカメラを飛ばそう
5	171	2012/6/9	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう (2)
6	172	2012/6/23	工作教室/発明クラブ合同	ヘロンの噴水を作ろう
extra		2012/7/3	出前講座(桐朋小学校)	発電の仕組みを知ろう
7	173	2012/7/14	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう (3)
8	174	2012/7/28	工作教室/発明クラブ合同	ペットボトルロケットを作って飛ばそう
9	175	2012/8/4	発明クラブ	光オルゴールを作ろう (1)
extra		2012/8/2~8	マイコン夏休み特別教室	電磁コマを作ろう
extra		2012/8/7	出前講座(富士見児童館)	ストローヘリを飛ばそう
10	176	2012/9/8	発明クラブ	光オルゴールを作ろう (2)
11	177	2012/9/22	工作教室/発明クラブ合同	電池のいらないラジオを作ろう
extra		2012/9/24	出前講座(調布市立第一小学校)	(1) 音とはどんなもの
extra		2012/9/30	出前講座(調布市立富士見台小学校)	ヘリコプターを作って飛ばそう
extra		2012/10/6~7	出前講座(渋谷区ハチラボ)	電気のエネルギー: 作る・使う
12	178	2012/10/13	発明クラブ	光オルゴールを作ろう (3)
extra		2012/10/15	出前講座(調布市立第一小学校)	(2) 空気の組成を調べる
13	179	2012/10/27	工作教室/発明クラブ合同	ヘリコプターを作ろう
extra		2012/10/22	出前講座(調布市立第一小学校)	(3) ヘロンの噴水
extra		2012/10/29	出前講座(調布市立第一小学校)	(4) ブーメランを作ろう
14	180	2012/11/10	発明クラブ	光オルゴールを作ろう (4)
		2012/11/23~25	調布祭企画	作品展示, Nゲージ
15	181	2012/11/24	流体力学会/工作教室	流れと遊ぼうコンテスト(第一小学校)
16	182	2012/12/3	発明クラブ	光オルゴールを作ろう (5)
17	183	2012/12/8	発明クラブ	光オルゴールを作ろう (6)
extra		2012/12/10	出前講座(調布市立調和小学校)	音ってなんだろう
18	184	2012/12/15	発明クラブ	光オルゴールを作ろう (7)
19	185	2013/1/12	発明クラブ	光オルゴールを作ろう (8)
20	186	2013/1/26	工作教室/発明クラブ合同	静電気の不思議
21	187	2013/3/2	工作教室/発明クラブ合同	エアークション艇を作ろう
22	188	2013/3/23	発明クラブ	修了式

第2回(8期生)、通算第168回

2012年4月28日(土) 14:00-16:00

会場

電気通信大学 創立80周年記念会館および講堂前広場

内容

工作教室:プロペラ飛行機を作ろう

小学校の防災訓練のため1時間遅らせて開始。今期、最初の工作はキットの組み立て。保護者の皆さんも加わって会場は満員。できあがったら外に出て滞空時間を計測した(フォトギャラリー)。最長は27秒。なお、ちょうふネットテレビの取材があった。

[特別研究生クラス]マイコンコース(1階)のほかにNゲージ組(水野先生)とマインドストーム組が2階で活動。



第3回(8期生)、通算第169回

2012年5月12日(土) 13:00-15:30

会場

電気通信大学 創立80周年記念会館

内容

発明クラブ:ステアリングカーを作ろう(1)

アイデアノートを開いて、まずは日付を記入(写真上)。思い付いたこと、メモしておかなければならないことをどんどん書いていこう。

ギアボックスの組み立てから作業開始(写真中)。そして基板への取り付け。みんな要領がよくて意外と早く終わった。資料は [ここ](#)。

[特別研究生クラス]マイコンAコース(1階)のようす(写真下)。2階ではネットラジオ組、マインドストーム組、Nゲージ組が活動。



会場

電気通信大学 A403教室

内容

工作教室:ピンホールカメラを作ろう

金環食の観測に備えて第三土曜日に実施。ピンホールを通った光線を反射させ、トレーシングペーパーに投影する方式。厚紙で鏡筒を作る(写真上)。出来上がったら教室のベランダに出て太陽を観察(写真中)。鏡筒の外に取り付けたV字形切り込みの影でアラインメントが簡単にできる。資料は [ここ](#)。

[後日]5/21/2012 07:36 曇天。千葉県印西市にて村上弘芳指導員がデジタルズームで撮影(写真下)。

[特別研究生クラス]1階はマイコンCコース(午前)とBコース(午後)。2階はマインドストーム、Nゲージ、C.I.C.B.S.。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館

内容

工作教室:ヘロンの噴水を作ろう

天才ヘロンが考案した卓上噴水。室内でひととおり工作したあと、玄関の外に出て最後の調整をした。ビニールシートを被せたて机が実験台。こどもたちの力を引き出すべく、ペットボトルのカット、穴あけ、シリコン・チューブの穴通しを自分たちでやり遂げるように指導をした。一旦噴水が出始めるとはまってしまう、みんな終了時間まで飽きることなく、水を追加しては実験していた。資料は [ここ](#)。

[特別研究生クラス]Aコース、各自のリモコンデータの採取とUROBOプログラムの修正。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階および調布市立第一小学校校庭と同体育館

内容

流れと遊ぼうコンテスト2012

知能機械工学専攻宮寄研究室の皆さんでイベントを実施。室蘭工大の高木正平先生による講義では、流れで揚力ができることの解説をしていただいた(写真上)、沢田拓さん(武蔵野ペーパーレーンクラブ)が機体設計と実技指導をくださった(写真中)、

午前には講義と工作、午後は第一小学校に移動して、校庭で滞空時間、体育館で飛行距離をそれぞれ測った。青空に向けてみんな元気よく飛ばした(写真下)。表彰式で幕を閉じた。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館 3階

内容

発明クラブ:光オルゴールを作ろう(8)

光オルゴールの最終回。初めに輪唱用の「静かな湖畔」の環状エンドレステープを作った。その後、各自が作ったテープで全員が演奏した(写真上)。長い曲を頑張って作った人、パソコンに頼らず手書きで作った人、めずらしい曲をテープにした人など各自工夫のあとが見られた。音は皆きれいに出ていたが、長いテープの貼りあわせやテープ送りに苦労していたようす。最後に、5、6年生のグループが「静かな湖畔」の3輪唱に挑戦した(写真中)。ぶっつけ本番だったが見事なハーモニーに大きな拍手。アンケートも記入してもらった(結果は[ここ](#))。

[特別研究生クラス]ライントレーサーを2台走らせて、そのうちにカブト虫もどきの押し相撲(写真下)。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館 3階

内容

工作教室:エアークッション艇を作ろう

別棟では次年度発明クラブの抽選会。みんなの前でOBの高本君がステアリングカーを操作して見せてくれた。抽選が終わったあと見学していく親子連れがちらほらあった。

今年度最後の工作は大嶋先生の指導でエアークッション艇の製作。知能機械工学科卒業予定のお姉さんが手伝ってくれたり(写真上)、お母さんが手伝ってくれたり(写真中)で、発明クラブとはちょっと違う雰囲気。

廊下に試走コースを作って時間を計測した(写真下)。最速は6.9秒。一気に抜けるという感じだった。その他、隠しタイムに近いで賞とベストパフォーマンス賞を表章しておしまい。資料は [ここ](#)。



第22回(8期生)、通算第188回

2013年3月23日(土)13:00～15:30

会場

電気通信大学 創立80周年記念会館 3階

内容

発明クラブ:修了式

第一部は修了式。事務局長沢さんの司会で、会長挨拶、中野先生によるアンケート結果の解説と講評、そして来賓挨拶と進行した。途中で原田先生制作の「はんだ付けの仕方」の7分ビデオを挟んだことがこれまでになかったことであった(あとでお聞きしたら、重い業務用ビデオカメラを肩にかついで制作したこともあるそう。すべて趣味で！)。次に、難しかったか、一人でできたかななどの感想(子どもたち)や週6日制になったら開始時刻を遅らせるほうがいいか(保護者)などを挙手で聞いたあと、記念写真の撮影を行なった。

第二部は生協食堂にて懇親会。目黒会副会長による乾杯で始まり、保護者からの感想をお聞きした。自分から秋葉原に出かけて工作をするようになったとか。子どもたちによる光オルゴールの演奏もあった(写真上・中)。

最後は特別研究生クラスの説明会(写真下)。ブースで熱心に聞き入る姿が見られた。

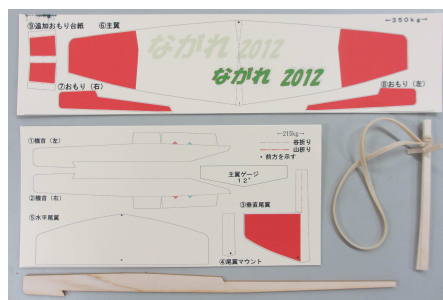


ながれと遊ぼうコンテスト 2012

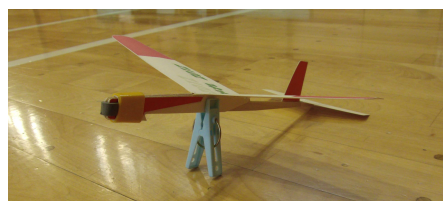
宮崎武*, 田口智清†, 高橋直也‡

平成 24 年 11 月 24 日（土）に小中学校生向けイベント「ながれと遊ぼうコンテスト 2012」を開催いたしました。この催しは自分で工作した紙飛行機の飛行性能を競う「紙飛行機大会」と、「飛行機はなぜ飛ぶの？」という疑問に対し揚力発生仕組みをわかりやすく解説する「デモ実験」を組み合わせた一日がかりのイベントです。「流れ」をテーマに子供たちに科学やものづくりの一端に触れてもらおうと日本流体力学会が主催して毎年行っています。実施担当は電気通信大学、東京電機大学、室蘭工業大学で、例年通り社団法人発明協会との共催の形をとりました。参加者の中心は「調布市少年少女発明クラブ」所属の子供たちですが、男子 35 名、女子 11 名の小学生 46 名が参加しました。また、今年は電気通信大学の学園祭「調布祭」と開催日が重なったため、にぎやかな雰囲気のなかでの実施となりました。

晴れやかな秋の朝、電気通信大学創立 80 周年記念会館の一室に集まった参加者には、木製の胴体とケント紙、ゴムからなる「2012 年型紙飛行機キット」が配られました（図 1）。胴体はヒノキ材を加工したもので、ケント紙にはあらかじめ実寸で翼の形が印刷してあります。ゴムは完成した飛行機を飛ばすときに使用するものです。子供たちはケント紙から翼を切りだし、接着剤で胴体に固定していくことで紙飛行機を完成させます。実際の製作に先立ち、機体設計者である澤田拓名人*1 より、工作の仕方や



(a)



(b)

図 1 2012 年型紙飛行機キットと完成した紙飛行機.

翼のつけ方などの説明があり、続いて名人や学生ボランティアに手伝ってもらいながら工作しました。

この紙飛行機キットですが、毎年研究室の学生ボランティアのみなさんの力を借りて人数分を手作りしています。特に神経を使うのはヒノキ材を加工して作る胴体部分の製作で、決められた寸法通りに作らなければ期待した性能は得られません。去年まではこれを手作業で行っていたため、多くの時間がかかっていました。今年は大学に設置されているレーザー加工機を用いることで、作業時間の大幅な短縮と加工精度の向上が達成できました。

飛行機の作製後、接着剤が完全に乾燥するまでの間、室蘭工業大学の高木正平教授に、「飛行機はなぜ飛ぶの？」と題して揚力の発生するしくみについて解説をして頂きました。解説は飛行機の紹介から始まり、様々なデモ実験を交えて揚力の説明がな

* 電気通信大学 知能機械工学専攻, 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

† 電気通信大学 知能機械工学専攻, 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

‡ 東京電機大学 機械工学科, 〒120-8551 東京都足立区千住旭町 5 番

*1 武蔵野ペーパープレーンクラブ会長.

URL : <http://homepage2.nifty.com/musashinoPPC/>



図2 小学生の前で実験の説明をする高木先生。



図3 小学生に紙飛行機の調整の仕方を説明する澤田名人。

されました（図2）。高木先生が工夫された「揚力体験実験装置」は、発泡スチロール、ストローやビニールホースといった身近な素材で作られたものばかりですが、子供たちは目に見えない空気がこんなにも面白く不思議な性質を持っていることに驚きを隠せない様子でした。

昼休みを挟んで近くの調布市立第一小学校の校庭に移動し、作製した紙飛行機による滞空時間コンテストを行いました。まず、澤田名人による機体の調整の仕方と飛ばし方の説明があり、続いて名人による実演がありました（図3）。紙飛行機がこれほど空高く舞い上がることを子供たちは予想していなかったようで、驚きの声があがりました。続いて子供たちは自分で機体の調整を行い、好記録を目指して紙飛行機を飛ばしました。今年の滞空時間部門チャンピオンは可瀬匠君の出した11.2秒でした。

その後、校庭から体育館に場所を移し、飛距離を

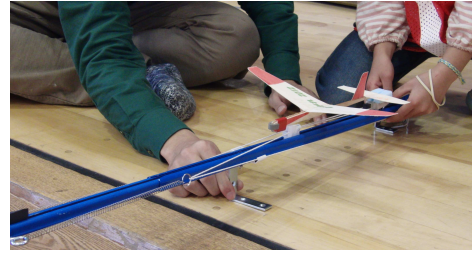


図4 紙飛行機用カタパルト。

競うコンテストを行いました。体育館のステージ上から体育館の反対側に向かって飛行機を飛ばし、航続距離を競います。目標は体育館横断です。滞空時間コンテストではゴムを木片にくくりつけた発射装置を使いましたが、今度は手投げで機体を押し出します。しかしこれが子供たちにとって存外難しく、多くの場合、まっすぐ目標に向かって飛行機を飛ばせません。理由は不慣れなこと、調整精度の不足などいろいろあると思いますが、例年あまりよい記録が出ない原因になっていました。そこで今年は、研究室の学生にお願いして、バネの力で飛行機を発射する「カタパルト」を作製してもらいました（図4）。子供たちには、手投げかカタパルトのいずれかを選んでもらい、航続距離を競いました。残念ながら体育館横断に成功した飛行機は現れませんでした。昨年より少し記録が伸び、岩田太陽君の23.0mが最長記録となりました。閉会式では、各部門上位3名の成績優秀者の表彰と賞品の贈呈が行われました。また、参加者全員に修了証が手渡され、記念品として「はさみとホチキスだけでできる紙飛行機」を持ち帰ってもらいました。

今回のイベントを振り返って、子供たちに流れというものに触れるよい機会を提供できたと思います。小さい子供には保護者に付き添って頂きましたが、キットの残りを保護者の方にも配り、親子そろって工作を楽しんでいただきました。今後はカタパルトを使った発射準備の時間短縮や、紙飛行機の調整精度をどう高めるかが課題であると考えています。末筆になりますが、コンテスト会場をご提供いただいた調布市立第一小学校、機体製作をサポートして頂いた目黒会に感謝いたします。

中学生職場体験受入事業

「中学生職場体験」は、進路指導と総合的な学習の一環として、地域にあるさまざまな事業所や施設などを活用して、勤労体験を通して労働の意義や職業に対する意識、理解を深め、将来の進路についての関心を高めさせること、社会の一員としての常識、マナーを身に付けさせることを目的として実施されているものである。

職場体験事業の受入れについては、地域貢献事業の一つとして位置づけ、平成17年度から地域・産学官連携推進機構地域貢献部門が担当し、平成21年度からは社会連携センターが窓口となって実施している。

平成24年度は、次の中学校から受け入れた。また、昨年に引き続き特別支援学級（教諭帯同）の生徒も受け入れた。

7月 2日～	7月 6日	府中市立府中第九中学校	2年生3名
9月25日～	9月27日	府中市立府中第二中学校	2年生2名、 3年生2名
11月20日～	11月22日	東京都立三鷹中等教育学校	2年生4名

受入れは、総務課、財務課、研究協力課、学生課、学術情報課及び基金事務局で行い、また、大学だけでは対応しきれないため、生協にも受け入れていただいた。

業務は、職員の指導の下に、書類の整理、学内郵便物の集配、データ入力、簡単な文書作成などの作業を行ったほか、生協では購買部で商品の整理などを体験した。生徒達は、真面目に熱心に取り組んでいた。

職場体験終了後には、職場体験のまとめや感想が書かれた礼状を生徒全員からいただいた。

「仕事はつらいこともあるが、とても楽しい」、「職場で仕事をするの大変さ、やりきることの大切さを学びました。」、「体験を通して仕事の責任、やりがいなどを感じました。」などのほか、特別支援学級の生徒からも「本やファイルなどをはこぶ力仕事が多く大変でしたが、とてもいい経験になりました。」というような感想もありました。

おもちゃの病院

1. 事業開始の概要

おもちゃの病院は、前田隆正氏（元本学監事）をはじめとする本学の卒業生が中心となって、平成15年7月から開催しているもので、単に壊れたおもちゃを修理するのではなく、「子供と一緒にこわれたおもちゃを分解し、一緒におもちゃの動く仕組みを調べ、一緒にそのおもちゃを組み立てて直す。」ことを方針に、毎月、第3土曜日の午後に創立80周年記念会館コミュニケーションホールで実施している。

2. 活動状況

平成24年度は、急患も含めると来院者数が193人、おもちゃの数は268個と昨年を大幅に上回った。1人が幾つも持ってくる場合もあり、年度の途中から1人2個と制限して受付を行ったが、予約なしに当日直接来院するケースが多く、時間内で治療できない場合や治療に時間がかかるものについては、入院という形で預かって修理することを行った。

この他、毎年開催される「調布市環境フェア（6月）」に参加したほか、市内小学校を巡回して開催される「こどもあそび博覧会（11月）」にも参加して、出前で治療を行った。

なお、おもちゃの病院のスタッフも高齢化が進み、24年度は本学OB1名と地域ボランティア1名がスタッフとして加わったが、スタッフの世代交代が大きな課題となっている。

開催回数	14回（月1回、環境フェア、YDAS（こどもあそび博覧会））
来院者数	193人
おもちゃ数	268個
（内 訳）	
修理	155個
修理不能	22個
入院	91個
ドクター数	12人（平成24年度末現在）

電通大のお兄さんお姉さんと楽しむ工作教室

電気通信大学には、OB・OG が中心となって指導している「調布少年少女発明クラブ」、「工作教室」があります。「発明クラブ」には毎年多くの申込みがあり、例年当選倍率が 8 倍を越える状態となっています。また、月に一度開催される「工作教室」についても毎回受付開始後すぐに定員 20 名がいっぱいになってしまうほどの盛況となっています。このような状況を受け、「発明クラブ・工作教室以外でも地域に貢献を」という趣旨の下、目黒会のご支援もいただいて「電通大のお兄さんお姉さんと楽しむ工作教室」が発足しました。

1. 模型製作教室

電気通信大学模型研究会のメンバーが指導員となり、小学生を対象にプラモデル作成の講座を開催。参加者には 2 種類のモデルからひとつを選択してもらい、研究会メンバーによる指導、サポートを受けながら制作を行いました。組み立てたプラモデルへの着色作業を行うことで参加者それぞれのオリジナル作品が完成。教室終了後のアンケートも好評価で、来年度も開催してほしいとの希望を多数いただきました。

- ・開催日時：2012 年 9 月 30 日（日）14:00～16:00
- ・場 所：電気通信大学 創立 80 周年記念会館（リサーチ）3 階
- ・制作模型：ダンボール戦記 LBX のプラモデル
- ・指導員：電気通信大学模型研究会のメンバー 約 10 名
- ・参加者数：合計 41 名 ※小学 1,2 年生には保護者の方にもご参加いただいた。

学年	参加人数
小学 1 年生	4 名
小学 2 年生	5 名
小学 3 年生	18 名
小学 4 年生	7 名
小学 5 年生	4 名
小学 6 年生	3 名
合計	41 名



2. 電子ピアノを作ろう

電気通信大学工学研究部のメンバーが指導員となり、小学 5 年生～中学 2 年生の参加者を対象に講座が開催されました。工学研究部員の指導のもと、マイコンを用いてボタンを押すとスピーカーから音が鳴る簡単な電子ピアノを作成しました。研究部員が予め準備しておいた基盤に、参加者自ら半田コテを使ってパーツを取り付けるなど、普段はなかなか体験できない作業に子供たちも熱心に取り組んでいました。

終了後にアンケートを実施しましたが、こちらの講座も好評をいただきました。また、更に作成してみたいもののアイデアを沢山寄せていただきました。

- ・開催日時：2012 年 10 月 28 日（日）13:00～16:00
- ・場 所：電気通信大学 創立 80 周年記念会館（リサーチ）3 階
- ・制作物：電子ピアノ
- ・指導員：電気通信大学工学研究部のメンバー 約 15 名
- ・参加者数：合計 26 名

学年	参加人数
小学 5 年生	11 名
小学 6 年生	13 名
中学 1 年生	18 名
中学 2 年生	7 名
合計	26 名



● 習得・知得

1. 公開講座
2. 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座
3. いなぎ IC カレッジ・プロフェッサー講座

公開講座

1. 概要

平成21年4月1日に社会連携センターが設置されたことに伴って、教育担当部署で担っていた公開講座の実施を、本センターが所掌することになった。

また、平成21年度には、翌年度に電気通信学部の改組が予定されていることから、それまで公開講座の専門講座は学科持ち回りで開講していたものを改組に合わせて今後の実施方法等を見直しすべく、社会連携センター運営委員会の下に公開講座検討専門委員会を設置して検討し、新たな方式での講座の開講を平成22年度からスタートさせた。

2. 平成24年度開講状況

平成24年度は、次の講座を開講した。また、昨年度に引き続き、本学と連携協定を締結している東京都立調布特別支援学校との共同企画による公開講座を開講した。

なお、従来から実施している（財）調布市文化・コミュニティ振興財団主催の市内・近隣大学等公開講座は、今年度は大学院情報システム学研究科情報メディアシステム学専攻が担当した。

<本学主催講座>

(1) 「調布身の丈起業塾」

- ・講師：社会連携センター 客員教授 前田隆正
- ・開講日：第4回 7月 7日（土）・ 7月14日（土） 参加者：11名
第5回 10月 6日（土）・10月13日（土） 参加者： 9名
第6回 2月 2日（土）・ 2月 9日（土） 参加者：23名

(2) 「東京都立調布特別支援学校との共同企画講座」

- ・講師：情報理工学研究科総合情報学専攻 准教授 水戸和幸
調布特別支援学校

○第5回ボランティア養成講座

震災時に障害のある子ども達を守るには・・・②

～学校と地域が連携した訓練に向けて～

- ・開講日：7月7日（土）
- ・参加者：37名

○第6回ボランティア養成講座

特別支援学校の子ども達とのふれあい～共生社会の実現をめざして～

- ・開講日：2月2日（土）
- ・参加者：40名

(3) 「子どもと学ぶ科学実験講座～最先端は身近にあった～」

- ・講師：情報理工学研究科先進理工学専攻 助教 牧昌次郎
- ・開講日：8月1日（水）

- ・参加者：14名

8月7日（火） 参加者： 9名

(4) 「女性のための起業講座」

- ・講師：社会連携センター 客員教授 前田隆正
- ・開講日：9月 1日（土）
- ・参加者：13名

(5) 「UEC コミュニケーションミュージアム特別公開講座 江戸時代の科学と技術」

講師：情報理工学研究科共通教育部 准教授 佐藤賢一

第1回「江戸時代の数学（1）」

開講日：10月27日（土） 参加者：20名

第2回「江戸時代の天文学」

開講日：11月24日（土） 参加者：25名

第3回「江戸時代の測量術」

開講日：12月22日（土） 参加者：25名

第4回「江戸時代の数学（2）」

開講日： 1月26日（土） 参加者：25名

第5回「蘭学と洋学」

開講日： 2月16日（土） 参加者：25名

(6) 「健康合気道講座」

- ・講師：情報理工学研究科共通教育部教授吉川和利
（財）合気会指導員

- ・開講日：11月6日～1月22日の毎週火曜日（12月25日・1月1日を除く。
全10回）

- ・参加者：20名

(7) 「数学を試してみよう」

- ・講師：情報基盤センター 准教授 土屋英亮
- ・開講日：11月24日（土）、25日（日）
- ・参加者：5名

(8) 「囲碁将棋から学ぶゲーム情報学」

- ・講師：情報理工学研究科 情報・通信工学専攻 助教 伊藤毅志
- ・開講日：12月8日（土）、9日（日）
- ・参加者：22名

<（財）調布市文化・コミュニティ振興財団主催・ちょうふ市内・近隣大学等公開講座>

「生活を支える賢い情報技術」

第1回「ロボットに「コツ」を教える方法ー観察学習パラダイムー」

- ・講師：情報システム学研究科 情報メディアシステム学専攻 准教授 工藤俊亮

- ・開講日：6月5日（火）

- ・参加者：33名

第2回「次世代コンピュータ・インタフェース」

- ・講師：情報システム学研究科 情報メディアシステム学専攻 教授 小池英樹

- ・開講日：6月12日（火）

- ・参加者：35名

第3回「ロボットの新しい作り方ーRTミドルウェアー」

- ・講師：情報システム学研究科 情報メディアシステム学専攻 教授 末廣尚士

- ・開講日：6月19日（火）

- ・参加者：21名

1. 調布市国際交流協会日本語ボランティア入門講座指導

[講 師] 池田 裕 (国際交流センター教授)

笠原 (竹田) ゆう子 (国際交流センター教授)

[期 間] 2012 年 7 月～2012 年 9 月 毎週木曜日 14 : 00～16 : 00 (全 12 回)

[場 所] 総合研究棟 301 マルチメディアホール、総合研究棟 306 講義室
西 10 号館 2 階会議室、たづくり 12 階大会議室

[講座概要]

調布市国際交流協会日本語ボランティア希望者 40 名を対象に日本語教育及び日本語教授法の基礎知識についての講義と異文化理解のためのワークショップを行った。

2. 調布市国際交流協会日本語ボランティア勉強会指導

[講 師] 池田 裕 (国際交流センター教授)

[期 間]

2012 年 4 月～2011 年 6 月 毎月第 3 木曜 14 : 00～16 : 00

2012 年 10 月～2013 年 3 月 毎月第 3 木曜 14 : 00～16 : 00

[場 所] 東 2 号館 B113 室

[講座概要]

調布市国際交流協会所属日本語ボランティア各期約 20 名を対象に、日本語教授法実習と教材分析、授業についてのカンファレンスを行った。

3. 調布市国際交流協会日本語ボランティア日本語教授法フォローアップ講座指導

[講 師] 笠原 (竹田) ゆう子 (国際交流センター教授)

[期 間]

2012 年 10 月～2013 年 3 月 毎月第 2 木曜 14 : 00～16 : 00

[場 所] 東 2 号館地下 B117 ホール

[講座概要]

調布市国際交流協会所属日本語ボランティア約 35 名を対象に、初級及び中級日本語について文法、教材分析、教授法、評価に関する講義・ワークショップを行った。

いなぎ I C カレッジ・プロフェッサー講座

1. 概要

「いなぎ I C カレッジ・プロフェッサー講座」は、平成 19 年度より稲城市教育委員会からの要請を受け実施しているものである。

この講座は、「稲城市生涯学習推進計画 “Inagi あいプラン”」に基づき、市民主体で運営する生涯学習の場として、平成 15 年 10 月にスタートした「いなぎ I C カレッジ」の講座の中で、幅広く・深く専門的な知識の追求する場として、より高度な教育内容を「やさしく、誰にでもわかりやすく」を目指して、大学の教員や名誉教授などを講師として新たに開設したものである。

講座は、前期・後期ごとに各 6 回開講する。

2. 平成 24 年度開講状況

平成 24 年度は、本学から 2 つの講座を開講した。

(1) 「通信の歩み～歴史的ロマンとエピソード～」

- ・開講学期：前期

- ・講師：元教授 田中正智

- 元教授 石島 厳

- ・開講日：4 月～9 月各月 1 回、全 6 回

(2) 「宇宙から学ぶ」前編：「宇宙天気と地球天気～電波の変化で災害予測～」

- ・開講学期：後期

- ・講師：(前編) 情報理工学研究科 情報・通信工学専攻 教授 芳原容英

- ・開講日：10 月～12 月各月 1 回、前編 3 回を担当

● 協働活動

1. キャンパス美化活動
2. 花植え活動

キャンパス美化活動を実施

定例の活動として、キャンパス美化活動を二度実施した（三度実施の予定であったが、冬（センター試験前）は雨天中止）。昨年土までの職員と学生との協働活動に加え、地域自治体や市民を交えた活動が始まった。

【第8回キャンパス美化活動】

7月12日（水）（16:20～17:30）に、厳しい暑さの中、当日参加の学生・職員や生協職員・清掃担当業者・市民も含め、約70名で実施した。

実施に当たっては、担当者間で綿密な打合せを行って準備し、当日は、ゴミ拾いのほか草取りを主体に作業を行った。また、日頃から主体的に学内の駐輪場の自転車整理を行っている学生課学生スタッフは、オープンキャンパスの前日（14日）夕方に自転車整理、移動等を実施した。

【第9回キャンパス美化活動】

調布祭（学園祭）前にした11月21日（水）（16:20～17:30）に実施した。今回の活動の特徴は、地域の方々（調布市職員、市民）の参加が広がったことと、学生有志が広く参加を呼びかけ、これまでで最大の学生の参加を実現したことである（全員で110名）。

花植え事業活動報告書

1. 事業の概要

平成14年9月から12月に、市民を対象とした、まちづくり講座「まち創造塾」が開かれた際、そのまとめとして市民から出された提言の1つに「住みたいまち、花のある調布」というものがあった。これに対し、この塾に出席していた当時の梶谷誠学長が「是非、大学内に花を植えてほしい」と要望され、実現する運びとなったもので、平成15年6月から、春・秋の2回、花植え作業が行われている。

日常の花壇の手入れは、調布市民ボランティアグループ「調布花・はな」の皆さんが行ってくれており、また、花植え作業には、平成21年度からは、本学と連携協定を締結している調布特別支援学校の生徒も参加している。

2. 活動状況

平成24年度の花植え事業は、例年どおり調布市民ボランティアグループ「調布花・はな」と大学、隣接の調布特別支援学校の生徒も参加して、春・秋の2回実施する予定であったが、春の花植え作業は、生憎の雨天となり、花・はなグループで実施した。

秋の花植え作業では、本部棟玄関前広場の花壇で、梶谷学長をはじめ、長友調布市長、東京都立調布特別支援学校中学部1～3年生の生徒及び職員、本学教職員・学生など総勢63名が参加し、花・はなグループの指導の下、ノースポール、パンジー、チューリップなど冬から春に向けて咲く花を植えた。

第1回 6月22日（金）雨天のため中止

第2回 11月 9日（金）10：00～10：30 参加者：63名

● ボランティア活動支援

1. 活動支援事業

ボランティア活動支援事業

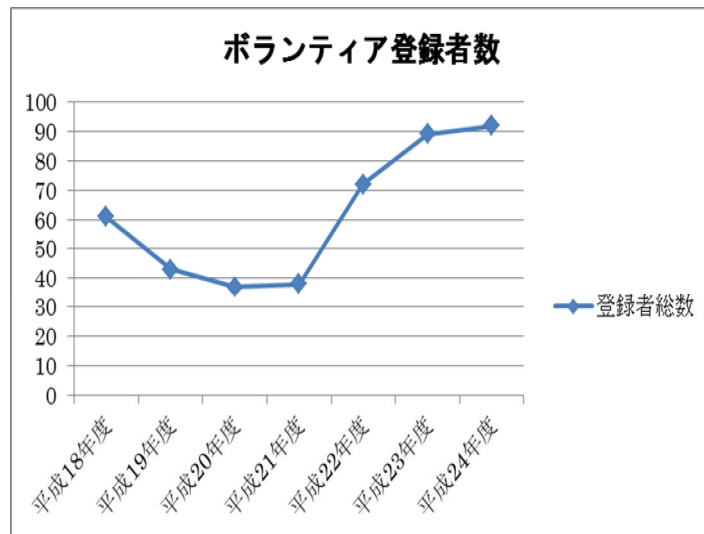
1) ボランティア活動マッチングシステム

昨今、多くの外部非営利団体から学生のボランティア依頼が寄せられている。一方、相当数の学生がボランティア活動に参加したいという気持ちを持っている。その間をとりもつのがボランティア活動マッチングシステムという一種のコンピュータシステムである。

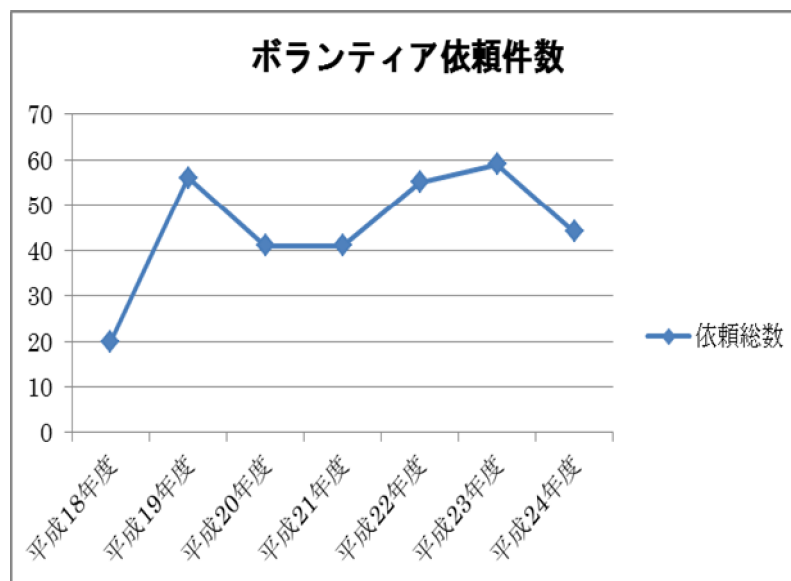
ボランティア活動を希望する学生はこのシステムに登録し、メーリングリストに入る。ボランティア参加依頼があれば事務局からメーリングリストあてに情報を発信する。興味を持った学生は依頼先に自分で問い合わせ、さらには参加申し込みを行う。

このシステムが運用を開始したのは平成 18 年度からである。それ以前は、学生課での掲示を通して斡旋がなされていた。あるいは、特に初等中等教育機関からの教育補助ボランティア依頼の場合には、特定の研究室への依頼を通して斡旋がなされることもあった。この場合、教職員の個人的なレベルでの斡旋は重い負担をかけるとともに、量的な限界があった。より広範な依頼をより多くの学生へ効率的に周知する目的でこのシステムが構築されたのである。

運用開始後、登録学生数が減少した時期もあったが、近年は概ね 90 名前後の学生がボランティアへ参加登録している。ホームページ改定を機に学外からもボランティア情報の閲覧が可能となったこと、参考情報として過去のボランティア依頼情報を参照できるようになったこと、東日本大震災後にボランティア活動への意識が高まったことなどが要因として挙げられる。



一方、ボランティア依頼件数は年度によって増減を繰り返している状況ではあるが、平均して年間に 40 件以上の依頼を受けている。但し、マッチングシステムを利用した依頼は非常に少なく、ほとんどがセンター宛に送付されるポスター等から依頼情報を収集している状況となっている。



章末に、平成 24 年度のボランティア依頼内容をまとめている（表 1）。

2) ボランティア依頼先へのアンケート調査

コンピュータ化は負担を減らす目的には有効であるが、きめ細かい斡旋は期待できない。また、週 2 回の入力に伴うタイムラグもある。そこで当該ボランティア支援システムでのマッチング成立件数を調べることを目的として、依頼者にアンケート用紙を送った。その際、満足度調査も併せて行なった。

アンケートの発送先は教育補助ボランティアに限定した。その理由は、この分野がコンピュータ化の影響が最も大きいと考えられるからである。教育指導補助に分類できる依頼先に対するアンケート実施状況は下記の通りである。

【平成 23 年度分】 平成 24 年 7 月に実施

- ・アンケート発送 6 件
- ・有効回答 4 件

【平成 24 年度分】 平成 25 年 3 月に実施

- ・アンケート発送 5 件
- ・有効回答 3 件

※これまでアンケートは翌年度に実施してきたが、3 月の年度末で担当者が異動・変更になるケースもあり、回答を得るまでに時間のかかることが多かった。そのため、平成 24 年度分からは当年度末にアンケートを実施するよう時期を変更した。有効回答率に劇的变化はなかったものの、各機関からの回答は非常に早く来年度以降も年度末のアンケート実施が効果的と考えられる。

アンケート結果を整理したものが章末の表 2 (平成 23 年度分)、表 3 (平成 24 年度分) である。

表から分かるとおり、マッチング成立件数は少ないが、依頼者の期待に応える働きを見せており満足度は高い。しかしながら、近年は当初想定していたほどマッチングの比率が上がっておらず、さらに登録者総数が約 90 名であることを考慮すると、この数はいかにも少ないように感じられる。

ここで留意すべきは、電気通信大学教職課程におけるボランティアシステムの存在である。元々マッチングシステム導入の効果が最も高いと考えられていた教育分野のボランティア、中でも大学所在地である調布市関係機関からのボランティア情報が、当センターを介さずに直接教職課程のボランティアシステムへ公開されるケースが近年増加している。教職を志す学生と教育現場との間で需要がかみ合っていると考えられ、センターとしても推移を見守っていくが、アンケートの対象となる事案については今後検討が必要である。

3)今後の支援事業に向けて

社会連携センターでは、上述の状況・アンケート結果等を鑑み、コンピュータに任せきったボランティア活動支援体制から一歩踏み出すことは必要であるとの認識を持つに至った。今後は、学内のボランティア関連組織（教職課程、学生主導によるボランティア推進部）との協調を進めていくと同時に、平成 25 年度より「公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩」が運営する「学生教育ボランティア」への参加を予定している。学生が活躍できる機会を増やすべく、学外の組織とも連携しながら支援事業を行いたい。

他方、実際にボランティアに参加した学生の把握およびその体験談の収集・活用が有効にできていない点、参加登録者数が十分ではない点が課題として挙げられる。解決の為、次年度以降は学生に対する広報活動の強化、現行のボランティア報告体制に関する検討が必要であろう。

表 1：平成 24 年度ボランティア活動依頼

区分 A:教育指導補助 B:野外活動等補助員 C:福祉活動 D:講座・集会 E:その他

	受付日	団体名	依頼内容	区分
1	2012/4/12	NPO 法人 東京おもしろ野外学校	サマーキャンプリーダー募集	B
2	2012/4/12	東京 YWCA	ボランティアリーダー募集	B
3	2012/4/12	公益財団法人 修養団(SYD)	石巻復興ボランティア参加者募集	B
4	2012/4/19	ボランティア団体 藤の会	高齢者傾聴ボランティア	C
5	2012/4/27	NPO こげら会・ケアこげら	知的障害者・児のガイドヘルパー養成講座	D
6	2012/4/27	伊那谷こども村事務局	サマーキャンプボランティア募集	B
7	2012/4/27	NPO 法人 HAL	キャンプ & スキーボランティア募集	B
8	2012/4/27	東京 YMCA	ボランティアリーダー募集	B
9	2012/5/8	NPO 法人 キッズドア	児童養護施設の中学生向け学習指導補助	A
10	2012/5/27	東京都養育家庭の会 武蔵野支部	里子の勉強支援	A
11	2012/5/31	国際青年環境 NGO A SEED JAPAN	夏フェス環境対策ボランティア募集	D
12	2012/5/31	調布市産業振興課	キンダー・フィルム・フェスティバル ボランティア募集	D
13	2012/5/31	東京 YWCA	リーダーズ・トレーニング	D
14	2012/5/31	NPO 法人 なみあい育遊会	キャンプリーダー募集	B
15	2012/6/12	ボランティア団体 藤の会	多摩川の清掃ボランティア	B
16	2012/6/27	社会福祉法人 新の会 はあと・ふる・えりあ	知的障がいの方の水泳活動見守り	C
17			知的障がい施設の秋祭りの補助	C
18			知的障がい施設での作業補助	C
19	2012/7/10	小学館レクリエーションリーダーズクラブ	サマーキャンプ ボランティアスタッフ	B
20	2012/7/10	NPO こげら会	ガイドヘルパー養成講座	D
21	2012/7/10	調布市市民活動支援センター	夏のボランティア	D
22	2012/7/10	神奈川県立青少年センター	ひきこもり・不登校のこどもや若者を支援する ボランティア体験講座	C
23	2012/7/10	調布市国際交流協会	夏休み子ども日本語教室	A
24	2012/7/10	調布市子ども家庭支援センター	ボランティア 募集	C
25	2012/8/20	調布市子ども発達センター	センター祭りのボランティア募集	C
26	2011/10/18	ソニーマーケティング 学生ボランティアファンド事務局	ソニーマーケティング学生ボランティアファンド	E
27	2012/10/16	調布市立第八中学校	土曜学習ボランティア	A
28	2012/10/19	アスカ王国ふれあいの旅委員会	母と子のふれあいの旅」リーダー募集	C
29	2012/10/30	埼玉 YMCA	日本-フィリピン青年友好ワークキャンプ	B
30			ボランティアリーダー募集	B
31	2012/10/30	東京 YWCA	ボランティアリーダー募集	B
32	2012/10/30	伊那谷こども村事務局	ウィンターキャンプ・ボランティア募集	B
33	2012/10/30	神奈川県立青少年センター 指導者育成課	PW(プロジェクト・ワイルド)エデュケーター一般 指導者資格取得講座	D

	受付日	団体名	依頼内容	区分
34	2012/10/30	神奈川県立青少年センター 指導者育成課	子供にかかわる若者ボランティアセミナー冬編 「子どもの力を引き出すファシリテーター体感隊	D
35	2012/10/30	NPO こげら会・ケアこげら	知的障害者・児のガイドヘルパー養成講座	D
36	2012.11.1	特定非営利活動法人 ポコポコホッピング 富士見町	障害児の放課後活動補助	C
37	2012.12.11	江戸川区教育委員会事務局	江戸川区学校応援団学生ボランティア募集	A
38	2013/1/22	スポーツ際東京 2013 調布市実行委員会	国体ボランティア 調布ゆりーとサポーターズ募集	D
39	2013/1/31	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	インターンシッププログラム応募者受付中	D
40	2013/1/31	東京ボランティア市民活動センター	市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2013	D
41	2013/1/31	災害救援ボランティア推進委員会	災害救援ボランティア講座	D
42	2013/1/31	(独)国立青少年教育振興機構	第1回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会	D
43	2013/1/31	東京 YWCA	小学生と遊ぶ！学生リーダー募集	B
44	2013/1/31	練馬区総務部人権・男女共同参画課	人を助けるすんごい仕組み～誰でもできる復興支援がここにある～	D

表2 平成23年度ボランティア募集团体に対するアンケート結果

アンケート実施日:2012年7月3日

有効回答:4件(6件発送)

団体名	質問事項	①依頼事項に対する 学生参加の有無		②参加有の場合、その満足度			③依頼の継続		④依頼手続き方法		⑤その他
		a 有り(名)	b なし	a 期待以上	b 期待通りの働き	c 期待外れ	a 依頼継続	b 依頼しない	a 現行のまま	b 方法の変更希	
調布市教育委員会 社会教育課		2名			○		○		○		先生や学生の皆様には、遊ingをはじめ社会教育課事業に御協力いただきまして、感謝しております。今後も引き続き、御協力をお願いします。
調布市 特別支援学校			○				○		○		
調布市 特別支援学校PTA			○				○		○		
調布市立 調布第八中学校			○				○		○		

表3 平成24年度ボランティア募集団体に対するアンケート結果

アンケート実施日:2013年3月8日

有効回答:3件(5件発送)

団体名	質問事項	①依頼事項に対する 学生参加の有無		②参加有の場合、その満足度			③依頼の継続		④依頼手続き方法		⑤その他
		a 有り(名)	b なし	a 期待以 上	b 期待通り の働き	c 期待外れ	a 依頼継 続	b 依頼 しない	a 現行の まま	b 方法の 変更希	
調布市立第八中学校		○ (人数回答 なし)			○		○		○		学内においてボランティア募集の ポスター掲示をお願いします。
調布市国際交流協会			○				○		○		例年、夏休みは通常のボランティア が休みとなり、大学生ボランティ アの皆様を中心に活動しておりま す。ぜひ今年度もご協力いただけ れば幸いです。
江戸川区教育委員会 事務局			○				○		○		

● トピックス

1. 調布特別支援学校との連携
2. 渋谷区教育委員会との連携
3. 調布市多方面のセクターとの連携

調布特別支援学校との教育連携について

情報理工学研究科・総合情報学専攻
准教授 水戸和幸

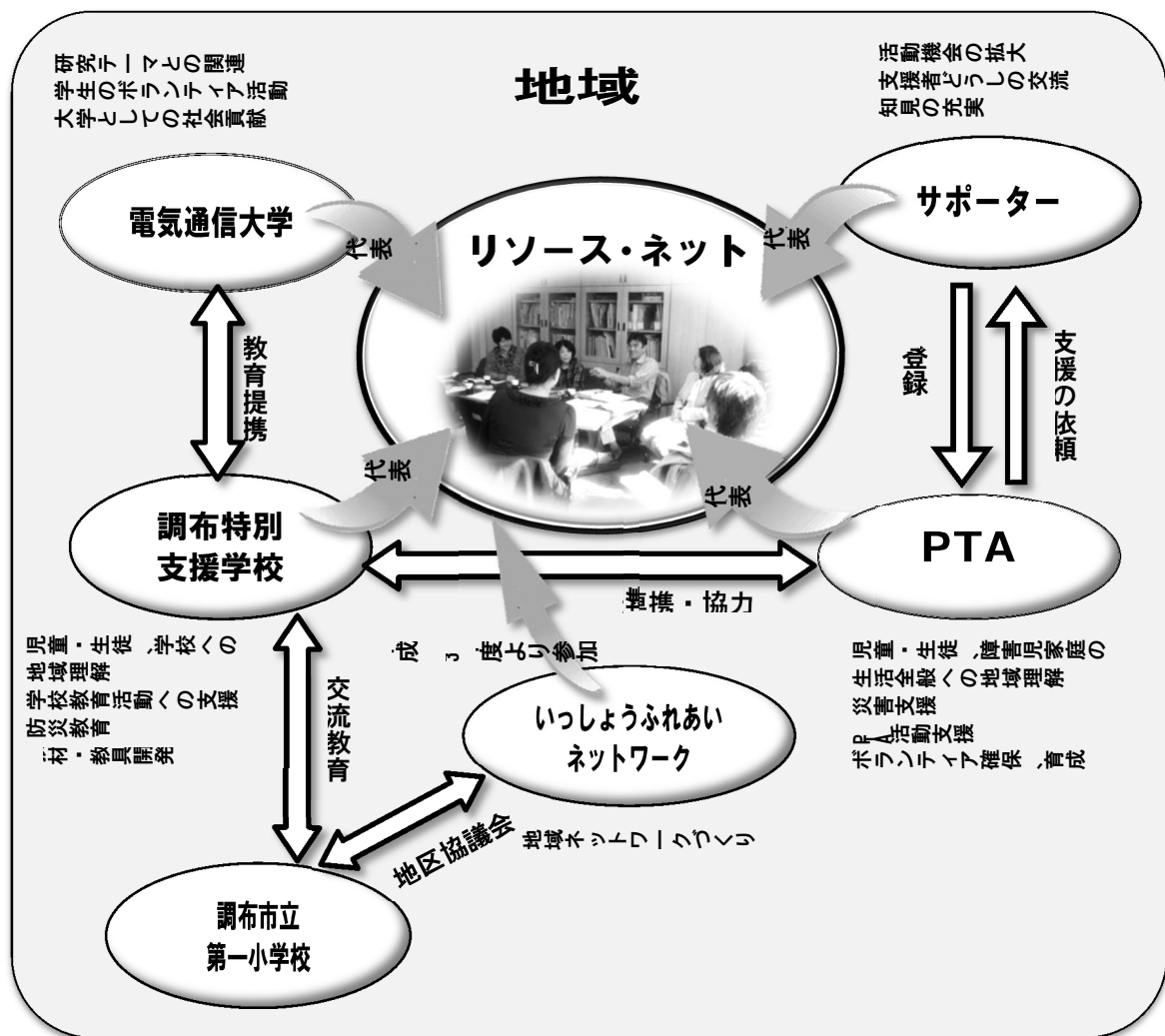
1 はじめに

都立調布特別支援学校が 2008 年～2009 年度に東京都教育委員会の「外部の教育資源を活用したしくみづくりモデル事業」の指定を受けて立ち上げられた検討委員会を経て、2010 年 4 月から「調布特別支援学校リソース・ネット」が具体的な活動を開始した。同組織は、地域社会や大学の資源（リソース）の掘り起こしと当校のニーズを探ることで両者を結びつけ、当校の児童・生徒の教育活動の充実を目指している。なお、当校と本学との間では 2009 年 10 月に教育連携の協定が締結されている。

2012 年度は当校が採択された「防災教育チャレンジプラン」、「放課後等活動推進事業」にもとづき行われる事業と連動した活動が主となっており、地域と連携した防災訓練、土曜日の余暇活動を実施した。これにより、地域住民、学生ボランティアの参加機会を拡大することができた。

2 活動組織：調布特別支援学校リソース・ネット

活動メンバーは、当校の教員と PTA 役員および卒業生保護者、サポーターとしての地域住民や本学卒業生、そして本学のボランティア推進部学生と教員 3 名（佐々木啓子教授：教職課程部会、奥浩昭准教授：総合文化部会、水戸和幸：総合情報学専攻）である。平成 24 年 1 月からは調布市立第一小学校学区の地域協議会（いっしょうふれあいネットワーク）のメンバーも加わり、より具体的な課題への対応と、事業を実施する体制が整備された。



リソース・ネットの組織概念図

3 活動内容

2012 年度に実施したリソース・ネットの活動内容は以下の通りである。

3.1 委員会の開催

ほぼ 1 ヶ月に 1 回のペースで委員会を開催した。

第 1 回：2012 年 4 月 18 日（水）10 時～12 時

委員紹介，役割分担，年間計画の確認，メーリングリストの管理

第 2 回：2012 年 5 月 16 日（水）10 時 00 分～12 時

公開講座（7 月）の企画，放課後等推進事業の委員確認および事業概要の確認，防災教育チャレンジプランの委員確認および年次計画の確認

第 3 回：2012 年 6 月 13 日（水）11 時～12 時

公開講座（7 月）の企画，放課後等推進事業の企画

第4回：2012年7月18日（水）10時～12時

公開講座（7/7）の報告と反省，放課後等推進事業（じゃん・けん・PON！（10月））の企画

第5回：2012年9月11日（月）11時～12時

じゃん・けん・PON！（10月）の企画，総合防災訓練（防災教育チャレンジプラン）の企画

第6回：2012年10月17日（水）11時～12時

じゃん・けん・PON！の企画，電気通信大学学園祭見学会（放課後等推進事業）の企画，総合防災訓練（9/26）の報告と反省

第7回：2012年11月13日（火）11時～12時

じゃん・けん・PON！（10/27）の報告と反省，電気通信大学学園祭見学会の企画，公開講座（2月）の企画

第8回：2012年12月19日（水）10時～12時

電気通信大学学園祭見学会（11/24）の報告と反省，ドッジビー体験（放課後等推進事業）の企画，公開講座（2月）の企画，防災教育チャレンジプランの事業報告内容の検討

第9回：2013年1月17日（木）10時～12時

ドッジビー体験の企画，公開講座（2月）の企画，防災教育チャレンジプランの事業報告内容の検討，リソース・ネットの広報パンフレットについて

第10回：2013年2月26日（火）10時～12時

公開講座（2/2）の報告と反省，防災教育チャレンジプラン事業の報告会（2/9）について，ドッジビー体験（1/26）の報告と反省，次年度に向けての組織体制と年間計画

第11回：2013年3月14日（木）10時～12時

次年度に向けての組織体制と年間計画

3.2 公開講座

（1）第5回ボランティア養成講座（2012年7月7日（土））

「震災時に障害のある子ども達を守るには・・・② ～学校と地域が連携した訓練に向けて～」のテーマで80周年記念会館3階（リサージュ）にて実施した。知的障がいを持つ子ども達を震災から守るために地域としてどのような連携や取り組みが必要かについて特別支援学校が必要とする支援について調布特別支援学校の教員や保護者からお話を伺った。また，地域としての防災

体制のあり方について調布市，調布警察署，調布警察署から説明を頂くとともに，参加者で地域防災のあり方についてグループ協議を行った．なお，参加者は 35 名であった．



公開講座の様子

(2) 第 6 回ボランティア養成講座 (2012 年 2 月 2 日 (土))

「特別支援学校の子ども達とのふれあい ～共生社会の実現をめざして～」のテーマで当校と本学の両施設を利用する形式で企画した．最初に調布特別支援学校の校内見学として児童・生徒の様子を参加者に見て頂いた．その後，本学 C 棟 103 教室に移動し，講演会を実施した．第一部では「障害をもった子への支援 ～共生社会の実現をめざして～」の演題で立教大学コミュニティー福祉学部の河東田博教授より講演を頂いた．第二部では「特別支援学校の子どもとのふれあい ～今できることから～」のテーマで調布特別支援学校の教員，保護者より日常生活での特別支援学校の子ども達の様子，学校や家庭が必要とする支援について説明を頂くとともに，地域住民や学生ボランティアの活動体験報告があった．なお，参加者は 40 名であった．

3.3 見守りボランティア

2010 年 10 月よりスタートし、本年度も継続して実施している活動である．本学の教職課程を履修している学生を中心に、毎週火曜日の昼休みの時間帯に校庭や体育館，プレイルームなどにて子ども達の見守りや一緒に遊んでもらう活動を展開している．今年度は，共通教育部 健康・スポーツ科学部会の大河原准教授の「スポーツとコミュニケーション」の授業と連携し，見守りボランティアを通じて知的障害について理解し，身体的・言語的コミュニケーションのあり方について学生が深く考える機会も設けられた．

3.4 研究室・授業との連携

昨年度、当校は都立学校 ICT 計画に基づいて、ICT を活用した授業実践等を一層推進するためにもうけられた「ICT 推進校」の指定を受け、これを受けて本学学生による ICT 教材の作成支援が行われた。今年度は、本学の西野哲朗教授（総合情報学専攻）が事業を進めている「ICT を活用した発達障害児教育支援システムの開発・ソフトウェア開発における自律型実践教育の展開」（平成 24 年度特別経費）との連携も踏まえた ICT 教材作成支援が行われた。

これらの連携と成果は、東京都教育委員会主催の ICT 教育フォーラム（11 月 12 日（月）、16（金））でも報告された。

3.5 花植え作業

調布市ボランティアグループ「調布花・はな」の皆さん主導で実施している花植え作業に調布特別支援学校の子ども達を招待し、学生および教職員と共に植え替え作業をするようになった。今年度は、11 月 9 日（金）に実施された。

3.6 放課後・余暇活動イベント

当校の児童・生徒の余暇活動や地域の色々な方とのふれ合いの機会を増やすため、そしてボランティアの参加機会の拡大を目的とした活動である。実施にあたっては、当校が採択された「放課後等活動支援事業」（東京都）にもとづき行われる事業と連動し、主として土曜日の余暇活動を複数回実施した。

（1）じゃん・けん・PON！（2012 年 10 月 27 日（土））

ゲームやダンスなどを楽しむイベントであり、児童・生徒 38 名（保護者・兄弟・介助者等 35 名）、ボランティア 31 名（当校教員、リソースネット委員含む）の参加があった。当校の PTA のサポートのもと、本学学生、地域住民がアイディアを出し、企画・運営等を行いながら当校の児童・生徒と交流を当校体育館にて行った。内容は体操、ジャグリング（本学「ぱさーじゅ」協力）、ゲーム、ダンス、おもちゃ不思議体験コーナー（本学「サイエンス・ミュージアム」協力）などであった。本学のボランティア推進部の協力により運営もスムーズに進行し、イベントは多いに盛り上がった。



おもちゃ不思議体験コーナー



キャラクターとのゲーム大会

(2) 調布祭見学会 (2012 年 11 月 24 日 (土))

本学の学園祭(調布祭)を見学するイベントであり、児童・生徒 7 名(保護者・兄弟・介助者等 8 名)、ボランティア 12 名(当校教員、リソースネット委員含む)の参加があった。児童・生徒、ボランティア、保護者が組になり一緒に出し物や買い物を楽しみながら、互いを理解し、距離を縮め、最終的には児童・生徒とボランティアの 2 人だけで行動をするという、子ども達の自立につながる活動となった。

(3) ドッジビー体験会 (2013 年 1 月 26 日 (土))

2013 年度国民体育大会(東京大会)の公開競技として調布市を会場に大なわれるドッジビーを楽しむイベントであり、児童・生徒 12 名(保護者・兄弟・介助者等 19 名)、ボランティア 7 名(当校教員、リソースネット委員含む)の参加があった。ドッジビー協会からの派遣スタッフの指導のもと大人と子ども達と一緒に同じことを楽しむとことで、ボランティアと児童・生徒がふれあうことができた。

3.7 防災教育に関する活動

東日本大震災の教訓をもとに、当校は「防災教育チャレンジプラン」の実践団体の指定を受け、9月に大規模な総合防災訓練を計画し、それに向けて様々な取り組みを開始した。また、2012年度から「防災教育推進委員会」が設置され、外部より防災の専門家、消防、警察、調布市防災担当の方々が委員として加わった。本学からも水戸（総合情報学専攻/社会連携センター委員）が同委員会のメンバーとなり、当校の防災教育プランの策定に協力した。

8月29日（水）、9月26日（水）の総合防災訓練では、「帰宅困難者支援ステーション設置訓練」、「福祉避難所設営訓練」が行われ、防災ボランティアとして本学教員および学生が参加した。



防災訓練の説明



福祉避難所設営訓練

渋谷区こども科学センター・ハチラボ講座 実施報告

共通教育部自然科学部会物理 中村仁

渋谷区こども科学センター・ハチラボでは、小学校高学年生を対象としたハチラボ講座を定期的に開催している。本学は提携大学の一つとして、年2回程度のペースで本講座に講師として協力している。今回、2012年9月及び2013年1月に、「白色LEDのなぞをさぐる」と「磁石で動くなぞの液体」の2つのテーマで講座を実施したので、その概要を報告する。

1 渋谷区こども科学センター・ハチラボ講座

渋谷区教育委員会では、地域の小中学生の学力向上を目的とし、中でも科学的思考やものづくりへの意欲を育てるために、平成22年度より、こども科学センター・ハチラボを立ち上げ、大学等の研究機関と連携して様々な科学・技術・数学のプログラムを提供している [1]。本学は提携大学の一つとして、区内の小学校高学年生を対象として開講されているハチラボ講座を、年2回程度のペースで講師として協力している。今年度も、9月と1月の2回を利用して、2つの実験講座を開催した。以下に、開催した2つの講座に関して概要と実施結果を報告する。

2 LEDを用いた電子工作実験「白色LEDのなぞをさぐる」

実施日：平成24年9月15日（土）14:00-16:00
講師：中村仁（共通教育部自然科学部会物理）
参加人数：21名（内、科学クラブ10名）
ボランティアスタッフ：6名

1つ目の講座は昨年度のハチラボ講座で実施し好評であったLEDを使った電子工作 [2] とした。内容は3つのLEDを用いて色を混ぜ、実際に白色光を作る装置を作製するもので、ブレッドボードは使用せず半田付けの作業から体験させるものである。予めLED用の穴空けと釘打ち加工を施した木板を用意し、RGBの3つのLEDと抵抗、電池ボックスを半田付けで配線する。釘は半田付けの際の中継用端子であり、予め表面に半田を馴染ませておき、簡単に半田付けが出来るようにしてある。参加する生徒のうち、科学発明クラブメンバーは既にクラブ活動を通して半田付けの経験がある。一般募集で参加する生徒もボランティア指導のもと、半田付けの作業を安全に実施できることが昨年の経験でわかっている。正三角形の頂点位置の穴に配置されたRGB3色のLEDを点灯させ、真上にピンポン玉を置くと

LEDの光が混ざり、三角形の中心付近にもっていくと白色を体験できる。外からの光を遮るために黒色の紙で遮光筒を作り、上から覗き込むようにさせる。

授業内容は以下の通りである。

1. **講義** 色を混ぜるとどうなるか
2. **実習** カラー印刷物（チラシ）を顕微鏡で観察、蛍光灯を直視分光計で観察
3. **実習** 工作準備：材料の確認
4. **実習** 抵抗、LED、電池ボックスの半田付け
5. **実習** 電球部分（ピンポン玉、遮光筒）の作製
6. **実習** 観測 “白色づくり”



図1: ハンダ付け作業の様子。1班（4~5名）にボランティアスタッフ1名が付き、さらにハチラボスタッフと講師が巡回して、個別指導に近い形式で行った。

回路は乾電池2つ（3V）で並列につないだ3つのLEDを点灯させるものである。経験的に200Ω程度の抵抗を赤色LEDにのみ直列につないで電流値を下げるとバランスが良いとの報告があるが、最近の緑色・青色LEDの輝度は結構高いようで、200Ωだと逆に赤みが足りなくなる傾向があった。そこで今回は、まず200Ωの抵抗をつないでピンポン玉の位置を調整してみて、時間に余裕のある生徒にはさらに200Ωを並列に接続し（合成抵抗として100Ωにし）、赤みが増し、より白色が作りやすくなることを経験させた。

昨年同様、開始前にボランティア指導スタッフに工作の練習などをお願いする時間を設けたが、昨年も指導に協力してくれたスタッフが多数おり、事前の打ち合わせは非常にスムーズに進んだ。講座内の実習でも火傷などの怪我もなく、予想通りの時間で、全ての生徒が完成させることが出来た(図1)。

観測では、まず赤、緑、青のLEDの真上にピンポン玉の電球の移動して、それぞれの色に光ることを確認する。ついで、その中間の適当な場所に移動して、様々な色の変化を観測し、ほぼ真ん中で白色になることを観測させる。作業の早い生徒には、追加の抵抗を半田付けさせ、色の変化を確認させた。半田付けに手間取った生徒も、追加の抵抗を並列に接触させるだけで赤色のLEDの光り方が変化する様子を確認させ、色を混ぜた場合にどうなりそうか予想できるようにした。

昨年度と参加生徒の顔ぶれは異なっているが、昨年同様に真剣に工作に取り組み、”白色づくり”の調整・観測をしていたのが印象的であった。

3 化学反応で磁性粒子をつくる「磁石で動くなぞの液体」

実施日：平成25年1月26日(土) 14:00-16:00

講師：小林義男(共通教育部自然科学部会化学)

講師補助：中村仁(同上物理)

参加人数：23名(内、科学発明クラブ10名)

ボランティアスタッフ：6名

今年度2つ目の講座は、磁性流体の作製と観察を行った。本学自然科学部会化学の小林義男氏に講師をお願いし、中村が補助を担当した。磁性流体とは磁性粒子が油などの適切な粘性をもった溶媒中に均質に分散したもので、典型的な粒子サイズは数10 nm以下である。さらに溶媒の成分に応じた適切な界面活性剤で磁性粒子が覆われており、磁性微粒子同士が凝集しないようになっている。最近インターネットを通じて小学生の間でも比較的ポピュラーな物体(?)になりつつあるが、2時間程度の小学生向けの講座で作製することは困難である。そこで本講座では化学反応により粒径の大きな磁性粒子(サブミクロン程度)の磁性コロイド溶液を作製し、永久磁石との反応を確認した後、市販の磁性流体を用いて磁力線に沿った”ツノ”構造ができることを体験することとした。授業内容は以下の通りである。

1. **講義** いろいろな磁石、磁石につくものつかないもの
2. **講義** 磁性流体(黒錆と赤錆)
3. **講義** 磁性コロイド作製方法の説明
4. **実習** 磁性コロイド作製：塩化鉄水溶液の作製
5. **実習** 磁性コロイド作製：水酸化ナトリウム水溶液滴下
6. **実習** 磁性コロイド作製：沈殿物回収
7. **実習** 永久磁石で磁性コロイドの動きを観察
8. **実習** 永久磁石で磁性流体の動きを観察

今回の実験は、まず2種類の塩化鉄水溶液を混ぜ、そこに水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ混ぜていく。中性に近づくにつれて黒錆であるマグネタイト(Fe_3O_4)が析出するようになる。塩化鉄水溶液を攪拌しながら、ほぼ中性の状態まで水酸化ナトリウム水溶液を加え、その後、静かに待つとマグネタイト微粒子が沈殿する(図2)。このマグネタイトの微粒子を回収し、石鹼水などに懸濁すると磁性コロイド溶液が出来上がる。



図2: 沈殿する様子を真剣に見つめる参加生徒

沈殿物の回収は時間の都合上遠心分離器を使用した(図3)。沈殿を生じさせた後に上澄み液を捨て、専用の容器に移し代えて遠心分離器にかける。いずれの作業も怪我などが伴う可能性があるものだったため、アルカリ性である水酸化ナトリウムの滴下はボランティアスタッフをお願いし、遠心分離器の操作は原則としてスタッフが行った。作製した磁性コロイド溶液は粒子サイズが大きいことと溶媒の粘度を調整する時間がないことなどから、市販の磁性流体のようなきれいな”ツノ”構造を観測することは困難である。しかし、液体を混ぜ合わせただけで沈殿物が生じ、”水中”で作製されたものが磁石に

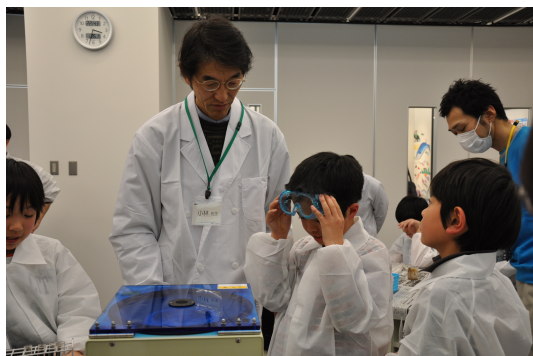


図 3: 遠心分離器を使って、沈殿物を取り出す。

くっついて動き回る様子は、十分に小学生の好奇心を誘ったようである。

続いて、本学児玉幸子准教授に提供頂いた、市販の研究用磁性流体を用いて、様々な“ツノ”構造を観測した。ここでは生徒の自主性に重点を置き、講師は事故が起きないように見守る姿勢で望んだが、磁性流体の入ったプラスチックシャーレ側面に磁石を配置し、磁性流体がシャーレ外に流れ出し、磁石が磁性流体まみれになるという“予想通りの事態”をまねくなど、いろいろな失敗も含めて楽しんでいたようであった。

磁石による力は磁力線として表現されることも多く、実際に磁石の上の下敷きなどに鉄粉を撒くことで、磁力線を可視化することを小学生3年生程度で学習するようである。今回観測した“ツノ”(スパイク構造と呼ぶらしい)は、磁力線を表わす場合もあるが、基本的には磁場勾配による力と流体表面に働く力のバランスから形状が決まるもので単純ではない。磁力線の話を持ち出すことは誤概念を植えつけることにもなりかねず、今回は避けることとした。

4 まとめ

昨年度に引き続き、今年度も本学から2回のハチラボ講座を担当した。講座を受講する小学生は、そもそも理科に興味がある、もしくは親が積極的である、という生徒であるので、敢えて興味を引くように努力する必要はあまりないのかもしれない。しかし、2時間という講座の時間は小学生にとっては決して短い時間ではなく、集中力を持続するために様々な工夫が必要となる。特に2つ目の講座では、酸やアルカリといった危険薬品を扱う内容を含んでおり、集中力の欠如が事故を誘発しうるため注意を要したが、結果的には経験豊富なボランティアスタッフのお陰で、全て順調に実施することが出来た。

来年度以降も、本学は提携大学の一つとして年に2回程度のハチラボ講座への講師派遣を行う予定である。参加小学生は原則として毎年変わると考え、これまで実施した内容と同一のものでも実施可能である(今年度のLEDの実験など)。新しく小学生向けのテーマを考えることも重要であるが、同じテーマを別の教員が担当することも可能である。担当講師が異なれば視点も複眼的となり、テーマの改良につながり歓迎している。このレポートを機会に、本学から多くの教員に興味を持って参加して頂けたらと思う。

謝辞

渋谷区教育委員会事務局生涯学習課放課後クラブ推進係の服部氏をはじめとするスタッフの皆様には、事前の準備に加えて当日の資料配布や工作時の生徒のサポートなど、多大のご協力をいただいた。本学総合情報学科児玉幸子准教授には、研究で使用している磁性流体の提供をいただいた。また、事前の準備段階において、報告者研究室学生諸君にサポートいただいた。ここに感謝いたします。

参考文献

- [1] <http://www.city.shibuya.tokyo.jp/edu/bunka/hachirabo.html>
- [2] 社会連携センター Annual Report 2011, p.18.

調布市多方面セクターとの連携

佐々木啓子

(1) 調布市科学センター講座「電気工作Ⅱ：ロボットを作ろう」

本学では、教職課程を履修している学生が、ほぼ毎月ボランティア活動として調布市科学センターの主催する小学校5・6年生を対象とした理科系の講座に、指導補助という形で参加しています。

12月15日に第12回講座「電気工作Ⅱ：ロボットを作ろう」では、教職課程の学部生12名に加えて、「魅力ある大学院教育イニシアティブメカノインフォマティックス・ガゼット教育」プログラムの一環として知能機械工学専攻の大学院生7名が参加し、ともに企画、運営、指導を行いました。

今年は、倉持信行さん（知能機械工学専攻博士前期2年）が考案したロボット『ワイパーくん2号』を教材に使用しました。開講にあたって教職課程の学部生たちは、事前に田中研究室（知能機械工学専攻）の大学院生から回路の説明やハンダ付けの指導を受けるとともに、小学生にわかりやすいようにマニュアルを作成し、講座当日に臨みました。

当日は、抽選に選ばれた調布市内の児童48名が参加し、早朝から学生たちが準備した電子工作の部品や工具を使って、全員がロボットを完成させることができました。完成後、児童らは自らの手で実際にロボットを動かし、歓声を上げていました。

本学学生の企画する講座は、同センターの中でも一番の人気講座となっています。また、調布市教育委員会および同センター指導員からは、1テーブル3名の児童に学生1名が付いて指導しながら一緒にロボットを作成することは、児童たちにとって良い教育効果があると高く評価されているとともに、参加児童やその保護者からも好評を博しています。



倉持さんの説明を聞く参加児童



本学学生が指導



完成した「ワイパーくん2号」

(2) 調布市立調布中学校:補習授業補助ボランティア

調布市立調布中学校からの依頼を受けて、教職履修の学生が、定期試験前に補習授業の指導補助のボランティアに参加しています。毎学期2回、年に6回の補習授業に約10名ずつ参加、通年で約60名の学生がボランティアで数学、理科、英語など授業を指導した。参加する中学生の数も次第に増えて効果をあげている。



数学の補習授業補助ボランティア



理科実験補助ボランティア

(3) 「調布から！復興支援プロジェクト」と連携：

ボランティア推進部～復興支援プロジェクトの収益金を石巻市震災復興政策課に寄付

「調布から！復興支援プロジェクト」と連携してボランティア推進部の学生たちは平成24年5月より「石巻焼そば」を週1回学生会館前で販売、また調布祭や調布市内のイベントでも販売した。調布祭では東北各県の物品を都内のアンテナショップから仕入れ、また風評被害を受けた安全な福島県のコメなども販売した。さらにインド綿衣料のチャリティー販売などの活動を続け、こうした事業に理解をしてくださった方のカンパや募金などを含め、合計202,086円を石巻市震災復興部復興政策課に届けた。3月22日に情報理工学部総合情報学科2年の養老毅暁君と量子・物質工学専攻後期博士課程3年の鈴木智之君が石巻市役所の復興政策課に出向いて寄付金を届け、翌日は、石巻市立北上中学校での追悼コンサートでボランティア活動をした。



ボランティア推進部 活動記録(平成24年度)

【2012年】 (参加イベント・ボランティア)

4月8日	せいせき桜祭り 石巻焼きそば販売
4月28日	調布市立小中学校 合同避難訓練
4月30日	国領千年乃藤まつり
5月12日	アースディ調布 おむすびアート・プロジェクト(福島県産米)
5月13日	三鷹プレイパーク
5月24日	NHKラジオ出演ラジオあさいちばん:電通大で石巻焼きそば販売
5月29日	電通大学生会館前にて石巻焼きそば販売初日
6月5日	IT講習会開催(毎週火曜日全5回)
6月9日	市民のための放射能測定教室
6月24日	調布市社会教育フォーラム
6月25日	全国特別支援学校長研究会お手伝い
7月7日	第5回ボランティア養成講座
7月8日	Kiitosコンサート
7月11日	オープンキャンパスに向けた美化活動
8月1日	社会教育課いよるヒアリング調査
8月1～3日	おらほせんがわ夏祭り:復興支援グッズ販売手伝い
8月16日	祇園精舎の法灯会 石巻焼きそば販売:インド衣料チャリティー・バザー
8月18～20日	福島県のサッカー少年たちを元気に!調布市で交流試合・合宿
8月20～23日	ウルトラキャンプ
8月26日	調布よさこい祭り(インド衣料チャリティー・バザー)
8月29日	総合防災訓練ボランティア
9月23日	御神輿を担いで空きを呼び入れる:布多天神社例大祭
9月26日	総合防災訓練ボランティア
10月7～8日	(ワカモノプロジェクト)調布市商工祭り
10月14日	国領わいわいまつり
10月20日	(ワカモノプロジェクト)調布市花火大会
10月21日	(ワカモノプロジェクト)調布飛行場まつり
10月27日	じゃん・けん・PON!調布特別支援学校
10月28日	調布市立第五中学校総合防災訓練
11月10日	YDAS2012 石巻焼きそば販売
11月21日	調布祭に向けた美化活動
11月23～25	調布祭にて石巻焼きそば・東北地方の物産品販売
12月1～2日	調布市福祉まつり
12月5日	美化活動懇親会
12月20日	美化活動実行委員会結成

【2013年】

1月14日	調布市成人式:成人式実行委員
2月2日	石巻焼きそば販売プロジェクト 学内販売終了
2月2日	第6回ボランティア養成講座
2月15～16日	調布駅前大型ディスプレイ放映デモ実験
2月21日	国際母語デー参加
2月24日	若者サポーターズパーティー
3月2～3日	東日本大震災慰霊祭プレ企画
3月2日	子育てフェスタ
3月10日	東日本大震災慰霊祭2013